

大崎市 ^{きた}北 ^こ小 ^{まつ}松 遺跡

平成 22 年度発掘調査 現地説明会資料



発掘調査のようす

平成 22 年 9 月 4 日 (土) 午後 1 時 30 分～

宮城県教育委員会

【調査要項】

- 遺跡名：北小松遺跡・新田柵跡
- 所在地：大崎市田尻小松ほか
- 調査主体：宮城県教育委員会
- 調査担当：宮城県教育庁文化財保護課
- 調査理由：経営体育成基盤整備事業田尻西部地区
- 調査期間：平成22年4月19日～11月末日（予定）
- 調査面積：約2,680㎡（9/3現在）
- 調査協力：大崎市教育委員会 宮城県北部地方振興事務所 江合川沿岸土地改良区

1. はじめに

現在、田尻西部地区では、水田の規模を大きくするのにあわせて水路や農道を整備し、農作物の生産性を上げる「ほ場整備事業」が進められています。この地区には、北小松遺跡（縄文時代）や新田柵跡（古代）などの遺跡が分布しており、そのため工事の前に、新しく造る「水路」や「農道」部分など（工事によって影響が及ぶ範囲）を対象に、平成19年度から宮城県教育委員会により発掘調査が行われております。今年度はその4年目にあたります。



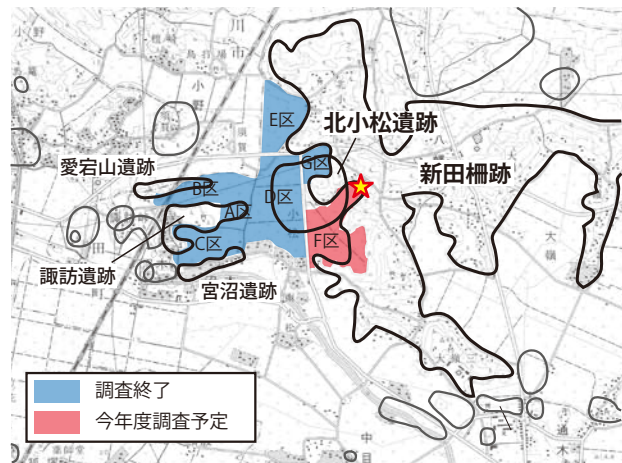
写真1 遺跡遠景（南から）

2. 北小松遺跡について

北小松遺跡は、大崎平野の北にある清滝丘陵から枝分かれた低い丘陵の縁辺と、それらに囲まれた沖積低地にあります（第1図、写真1）。

遺跡の東にある丘陵には、奈良・平安時代の城柵・官衙（役所）遺跡として有名な新田柵跡があり、また、西には愛宕山遺跡・諏訪遺跡（縄文・古代）、南には宮沼遺跡（縄文・古代）などの遺跡があります。

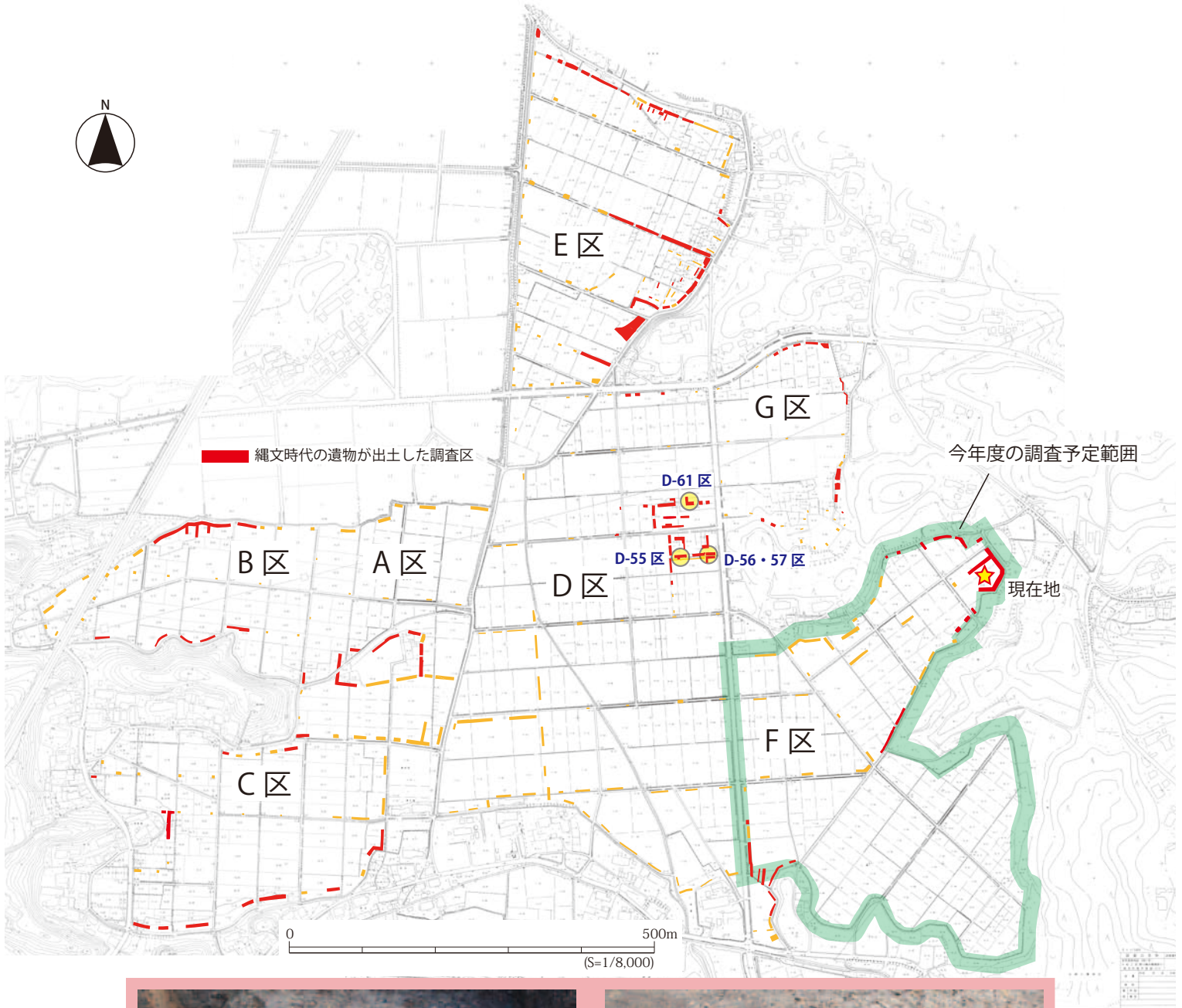
本遺跡は1957年の開田工事の際に、縄文時代の「人骨」や当時の人々が食料にしたシジミやタニシなどの貝類、多数の縄文土器類が発見されて、縄文時代晩期の遺跡として注目される



第1図 遺跡の位置と周辺の遺跡



いぶつほうがんそう
厚さ約2mの遺物包含層から多量の土器類が出土しました（写真左）。
かめがたどせいひん
亀形土製品（写真中央）
もくたいしつき
や木胎漆器（赤漆を塗った木の器、写真右）などたいへん珍しいものも見つかっています（D-61区）。



子どもの墓（上に大きな鉢が伏せられていました）（D-56区）



イヌの墓（3匹一緒に埋葬されています）（D-57区）

第2図 これまでの調査地点と成果



写真2 ヒトの頭と足に土器を逆さに伏せて埋葬した墓（右：土器を取り除いたようす）（D-56区）



写真3 集石遺構（D-55区）
礫石器（砥石や石皿）
などや石棒などが一箇所に集められていました。何らかの儀式が執り行われた可能性があります。

ようになりました。そして近年の調査の結果、現在の水田部分には当時、蕪栗沼のような湖沼が広がっていたことがわかり、その沿岸部にあたる、現在低丘陵や微高地となっている部分に縄文時代早期～晩期の集落があったことなどがわかってきました。なかでも晩期には多くの集落が営まれたことが明らかとなっています。

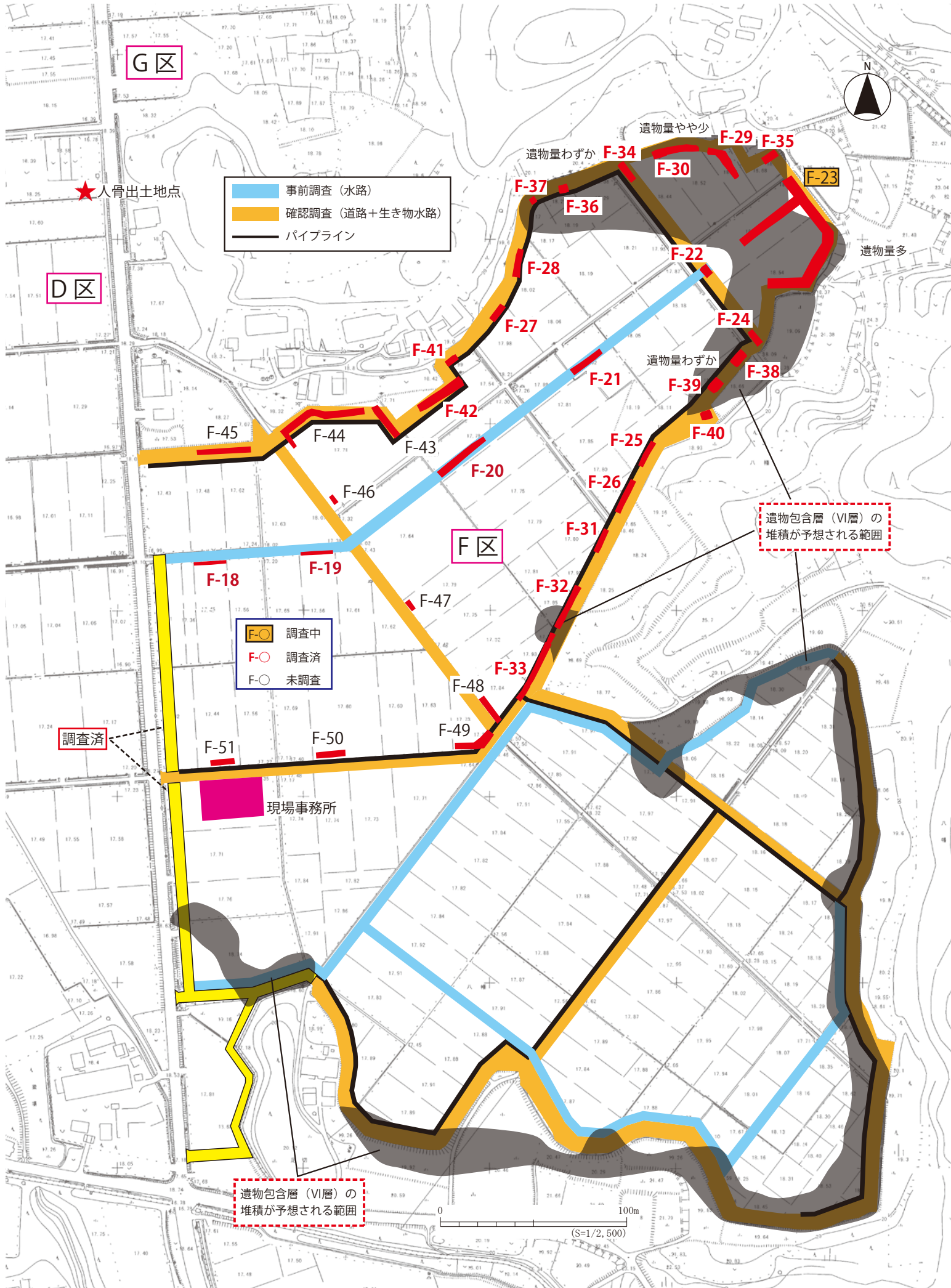
昨年度に行われた調査では、遺跡の標柱がある微高地（当時の丘陵の突端部）付近で縄文時代晩期の墓を多数発見しました（第2図）。人骨が良好に残っており、胸のところで手を組み、両

膝を曲げて埋葬されたようすがよくわかる状態で見つかっています（写真2）。また、墓の近くでは掘立柱建物跡や集石遺構（写真3）などの生活の痕跡を多数発見しました。さらにその周囲には、遺物包含層とよばれる多くの縄文土器や石器などを含む地層が広く分布しており、他に、通常では残りにくい木製品や骨角器、動物の骨、貝殻、木の実などが多数発見されました。これらはこの地区で行った調査の中では最大の出土量であり、この地点で特に大きな集落が営まれていたと考えられます。

3. 発掘調査の成果

今年度の調査地点は、縄文時代晩期の人骨（墓）が多数発見された地点（墓壙群）の東側になります（第3図）。三方を丘陵に囲まれており、当時の湖沼の入り江にあたる部分になります。なかでも縄文土器などが特に多く出土した地点は、墓壙群から約400m東にあり、入り江の最奥部にあります。

今回の調査では、縄文時代晩期（約2,500年前）の掘立柱建物跡、焼き火跡、イヌの墓などを発見し、これらの周りで遺物包含層を発見しました（写真4）。特に注目すべき点は、居住域である掘立柱建物群と、そこに住んでいた人々が日常使用した道具類や食べ物のカスが集まった遺物包含層と一緒に発見されたことであり、これにより当時の土地の利用のあり方や日常生活のようすなどを詳しく知る



第3図 今年度の調査地点 (F区)



写真4 掘立柱建物跡と遺物包含層（点線の外側の黒い部分）

上：柱材の残る柱穴

下：F-23 区略図（縮尺：1/500）

ことが可能となりました。当時は、岬のように突き出した地盤の良い丘陵上に建物を造り、建物からやや離れた水辺に道具類や食ベカスを廃棄していたと考えられます。また、出土した土器や石器、骨角器などを見ると日常的に使用する道具類

が多くあり、ここは日常生活を送っていた場所と推定できます。

居住施設とみられる掘立柱建物跡は 10 棟以上確認されています。一辺が約 2～3m の正方形または長方形の形をしており、一部の建物では長さが 6m 以上になる大型のものや、五角形や六角形となるものもあります。柱穴が狭い範囲で多く検出されたことから、同じ場所で何回も繰り返し建物を建て替えたようすがうかがえます。柱穴の深さは約 60～80cm あり、柱の太さは 30cm 前後と推定されます。また、当時の柱材の一部が残っているものもあります。柱材は、放射性炭素年代測定という方法を用いて、柱が実際に作られた年代を直接測定することが可能となるので、建物が建てられた年代を推定することができる貴重な資料になります。

掘立柱建物跡の周りでは焼き火跡（3 箇所）を発見しています。建物跡とその位置が重ならないことから、この地点では、屋外で炊事や道具の加工などを目的として火を使用していたとみられます。

また、この周囲の遺物包含層から、約 200 箱以上の遺物が出土しています。縄文時代晩期後半（大洞 C2～A' 式）の縄文土器や石器のほかに、通常では残りにくいシカやイノシシなどの骨、これらを利用して作った骨角器などが多数出土しています（写真 5・7）。これまでの調査でも動物の骨が多数出土していましたが、一箇所からこれほど集中して見つかったのは初めてです。また、これらの有機質の遺物は海から離れた内陸での出土例は少なく貴重な資料です。

これらの他に、遺物包含層からイヌの骨が 5 体発見されました。シカやイノシシなどは食糧として解体し利用されるために骨がバラバラになった状態で出土しており、また骨髄を採るために割られているものが多いのが特徴です。一方で、イヌの骨はほぼ全身の骨格がそのままの形で残っていたこ



写真5 遺物の出土状況



写真6 埋葬されたイヌ



腰飾り（骨角器）



もりがしら
鋸頭（骨角器）



ヤス（骨角器）



髪飾り（骨角器）



耳飾り（土製品）



くし（木製品）

写真7 出土したいろいろな道具・装飾品

とから、埋葬されたものと考えられます（写真6）。

4. おわりに

今回の調査で、縄文時代晩期の居住域とゴミ捨て場を発見しました。この場所には日常生活で用いられた道具類や食べ物が良好に残されており、当時の日常生活のようすを知る貴重な発見です。日本列島は酸性土壌のため有機質の遺物が残りにくい状況にあり、土器や石器以外の有機質の道具や実際の食べ物の内容までわかる事例は少ない状況にあります。しかし、この地区は、地下水位が高いため遺物が水漬けの状態にあることや、狭い範囲に骨や貝などのアルカリ質の遺物が大量に捨てられたために土壌が中和されたことなど、有機質の遺物が残りやすい条件が整っています。県内では、沿岸部の貝塚などでこのような出土状況が見られるのですが、内陸部でこのように条件の整った場所を発掘調査した事例は少ないのが現状です。これまでの調査とあわせて、内陸部における縄文人の生活のようすを知るうえで貴重な調査事例であり、これらを解明するためにはさらなる調査と分析が必要です。

【 歴 史 年 表 】

時代	年 代	おもな出来事	周辺の遺跡	日本のおもな遺跡		
旧石器時代	約 3 ～ 4 万年前	日本列島各地に人類の生活痕跡 狩猟・採集の生活		岩宿遺跡 富沢遺跡（仙台市）		
縄文時代	約 12,000 年前	草創期		福井洞穴		
		早期				
	約 5,000 年前	前期			熊野堂貝塚 中沢目貝塚 北小松遺跡	里浜貝塚（東松島市） 三内丸山遺跡 姥山貝塚 寺野東遺跡 亀ヶ岡遺跡 是川遺跡
		中期				
		後期				
	約 3,000 年前 BC300 頃	晩期				
弥生時代	AD300 頃	稲作の開始 金属器の使用 卑弥呼が邪馬台国を治める		板付遺跡 登呂遺跡 吉野ヶ里遺跡		
古墳時代	538	大和朝廷による日本の統一 前方後円墳が造られる 倭の五王による中国への遣使 仏教伝来		雷神山古墳（名取市） 伝仁徳天皇陵		
飛鳥時代	604 645 701	憲法十七条の制定 大化の改新 陸奥国の建国 大宝律令の制定	日向前横穴古墳群	高松塚古墳		
奈良時代	710 724 741 780	平城京（奈良）に遷都 多賀城設置 国分寺・国分尼寺建立の詔 伊治公弑麻呂の乱	新田柵跡 木戸窯跡 諏訪遺跡 宮沼遺跡	平城京跡		
平安時代	794 802 915 1167	平安京（京都）に遷都 坂上田村麻呂、胆沢城を造る この頃、灰白色火山灰（To-a）が降る 平清盛が太政大臣となる		平安京跡		
鎌倉時代	1192	源頼朝が征夷大將軍に任ぜらる				

Memo